2016-2017 年度今治ロータリークラブ週報 No.12

第 １２ 回 例 会 報 告（１０月１３日）

【 出　席　報　告 】

・会員数　５３名　・出席数　３８名　・欠席数　１５名
・当日出席率　７４．４６％　・前々回修正出席率　１００％
＜欠席会員＞原、平田、板脇、冠、木村、近藤、松木(久)、松木(徹)、森岡、田中、竹田、吉田
〔免除会員〕青野(明)、檜垣(巧)、越智
<9/29 欠席補填>(9/25 ﾗｲﾗ)阿部　(10/4 今治南)青野(淳)、檜垣(直)、桑森、松木(徹)、松本、西信、尾越、山本、竹田、吉武　(10/5 東予)大澤

◇会長報告・先般一部をお伝えしたが、9 月の米山協議会での話をいくつか報告したい。米山記念奨学会事業は日本の RC 創始者・米山梅吉翁の偉業を記念し、後世に残る事業を立ち上げようと 1952 年東京 RC が構想を発表。2 年後タイから初の奨学生を迎え入れたのを皮切りに、累計で 124 の国・地域から 1 万 9197 人が来日した。本年度は全国で 750 人（四国 17 人、愛媛 4 人）。寄付は累計で 546 億円、2670 地区は 134 億 6000 万円に上る。今治 RC は地区 6 番目の 3464 万円、個人平均は 9 番目に位置する。先輩のおかげだ。普通寄付はクラブから出すが、特別寄付は任意。皆さんの協力をお願いします。

◇親睦活動委員会･お誕生日スピーチ・桑森ひとみ会員：弁護士になったとき、勉強ばかりしてきて何も知らない私が、人の相談に乗れるのかと不安と畏れを抱いた。その時の気分を忘れず仕事も遊びもやっていきたい。

新会員卓話

◆辰巳和久会員『自己紹介、会社紹介、私の課題』:名前の読みは「かつひさ」。濁りません。寅年の1962年大阪西区生まれ。1985年大学を卒業後、営業マンとして今治に来て光藤会員と出会い大変世話になりました。その後2014年、藤本重機に入社すべく今治に来て再会。昔のことを覚えていてくださり「今治に根を張って生きるなら」と当クラブ入会を勧められました。趣味はスポーツ全般。週1回サッカーとボクシングで汗を流します。お酒もいける口で赤ワインが大好き。▼藤本重機は先代が1963年に創業。従業員49人。近見町に本社、松山市に営業所を構えます。①クレーンリース ②矢板工事 ③生コンクリート圧送 ④運送―の4事業部があり、①②が売上げのウエートを占めています。クレーンは紀元前450年ごろ、ギリシャ人が考案。ジブ（腕）を備えた姿が鶴（英語でクレイン）に似ていることからクレーンとなった。日本では1962年、「クレーン等安全規則」が制定され、正式名称が起重機からクレーンに変わった。▼弊社は自走運転席とクレーン操作席が同じラフターを大小19台保有するほか、新車価格で2億円を超す200トン吊りをはじめとするオールテレーン3台、河川工事などに使うキャタピラー付きのクローラを揃えている。いずれも移動式。狭い場所にクレーンが入っているのを見た方はどうやって入れたのかと疑問を持たれるはず。それは前後2輪だけを動かせたり、4輪を独立して動かせたりする特殊なステアリングがあるから。昔は時々転倒事故があったが、今は過負荷防止装置が備わり、人の勘や経験任せにせず、過重計算をコンピュータが行うため事故を起こさなくなった。▼私は、①企業イメージをいかに高めるか ②事業領域をどうシフトしていくか ③ITを活用した管理体制をいかに強化するか―を課題と考えている。①は建設業界の3Kイメージを払拭、魅力を高めて優秀な人材を集めたいからだ。そのためHPを刷新したり、企業ドメインを変えたり、会社案内、名刺を作り直した。②は現在の事業領域である愛媛を中心とした四国だけでなく、東京五輪や熊本復興に関わる仕事をしたい。水面下で営業活動を始めた。地域にいては分からない自分の仕事の素晴らしさを従業員は再認識してくれるだろう。新しい問題にチャレンジすることで新たな課題も見つかる。あんなやり方があるのかと仕事を見つめ直すきっかけにもなる。③はまだまだアナログ管理の会社を変えていく。今は社の財務全体は分かっても、柱となる4事業ごとの収益は把握できない。そのため経営投資戦略に確信が持てない。コストはかかるが最優先課題として取り組みたい。意見があれば聞かせてほしい。

次 回 例 会（１０月２０日）

【　創立記念例会　】

＜会員誕生日祝＞　八木　正人氏（10/22）　八木　伸樹氏（10/23）
＜結婚記念日祝＞　光藤　廣司氏（10/22）　岡田　昌平氏（10/22）　松木　徹夫氏（10/22）

〔　笹　〕